



夏休み初日の7月21日(土)の朝、おやじの会は三日野小体育館に備蓄してある防災用品の移設作業を、ボランティアで参加して下さったご父兄の皆様と一緒に実施しました。また、同日午後には、青竹で作った水鉄砲で遊ぶ大会を開催し、大勢の子供たちに楽しんで頂きました。

第1部 備蓄品移設作業 (担当：今井プロジェクトマネージャー)

三日野小には、震災等の非常時に備えた非常用備蓄品が取り揃えてあります。レトルトの米やカンパン、梅干し等の非常食、水用のポリタンク、毛布、仮設トイレ等、丁度今月、新潟県中越沖地震の被災者の皆様が利用されている様な備蓄品が貯蔵されています。今回の作業は、備蓄品が仮置きされていた体育館から、裏庭に新設した専用倉庫に移設する、いわば肉体労働です。

品川区の防災課から四名の担当者が来校され、体育館に並べられた全ての備蓄品を、どの順番で備蓄倉庫に貯蔵するか、的確な指示を頂きながら進め、作業は一時間余りで終了しました。定期的に交換する食料品は、入れ替えし易いよう、体育館舞台下のスペースに貯蔵してあります。

今回はおやじの会が主体となり、ご父兄の方々、先生方も大勢参加しての作業でしたが、震災はいつ起こるかわからず、休日や夜間など、先生方がいらっしやらない時間帯に発生した場合には、地域住民たるおやじの会・ご父兄が、備蓄品の置き場所や内容を把握していることが望ましいとの観点から、協力をさせて頂いた次第です。ご協力頂きました皆さん、お疲れ様でした。



体育館に並べられた備蓄品 裏手の備蓄倉庫へ運ぶ列 倉庫内への搬入作業 倉庫内に積まれた備蓄品 体育館舞台下の食料品

第2部 手作り水鉄砲大会 (担当：奥野プロジェクトマネージャー)

おやじの会が主催するイベントの第二弾として、手作り水鉄砲大会が行われました。おやじの会で準備し、あらかじめ加工しておいた青竹を90本用意し、はじめに全員で水鉄砲を仕上げるところから行いました。材料は、竹一組（鉄砲本体となる太めの竹、節に細い穴を開けたもの1本と、ピストンの役目をする少し細めの竹1本）とスポンジ、布、凧糸です。作り方は簡単で、細い方の竹の、節がある方の端にスポンジと布を巻いて、凧糸できつく結びます。それを太い方の竹に差し込めば、水鉄砲の出来上がりです。水を吸い込ませて、勢いよくピストンを押し出せば、水が飛び出てきます。

いくつかのゲームを行いました。的当て競争、距離飛ばし競争、水掛け対戦など、おやじの会メンバーも夢中になってしまうような、とてもエキサイティングな大会となりました。

最後に、約600個の水風船を参加者に配り、おやじの会メンバーが的になって、水風船の投げ合いを行いました。子供たち、また、おやじたちにも、これが一番楽しかったようです。



水鉄砲の作り方を説明



さあ、みんなで作ってみよう



熱戦続きの水掛け対戦

《編集後記》

夏休みが始まりました。思い出作りの第一弾として、今回の水鉄砲大会、楽しんで頂けたと思います。

おやじ達もたっぷり楽しませて頂きました。おやじがまず楽しむこと、それが「三日野おやじの会」の神髄です。長い夏休み、怪我や事故に遭わずみんなが楽しく過ごしてくれることを望んでいます。
(文責 山田)

